

第 32 回 管理栄養士国家試験

1 栄養ケア・マネジメント

2018-84 栄養ケア・マネジメントに関する記述である。正しいのはどれか。1 つ選べ。

- (1) 栄養スクリーニングは、侵襲性が高い。
- (2) 栄養アセスメントは、栄養状態を評価・判定する。
- (3) 栄養診断は、疾病を診断する。
- (4) 栄養ケア計画の目標設定には、優先順位をつけない。
- (5) モニタリングは、最終的な評価である。

2018-85 静的栄養アセスメントの指標である。正しいのはどれか。1 つ選べ。

- (1) 血清トランスサイレチン値
- (2) 血清トランスフェリン値
- (3) 血清総コレステロール値
- (4) 血清レチノール結合たんぱく質値
- (5) フィッシャー比

2 食事摂取基準の基礎的理解

2018-86 日本人の食事摂取基準（2015 年版）において、70 歳以上で目標とする BMI（kg/m²）の範囲である。正しいのはどれか。1 つ選べ。

- (1) 18.5～22.0
- (2) 18.5～24.9
- (3) 20.0～22.0
- (4) 20.0～24.9
- (5) 21.5～24.9

2018-87 日本人の食事摂取基準（2015 年版）における、ビタミンの耐容上限量（UL）に関する記述である。正しいのはどれか。1 つ選べ。

- (1) ビタミン A では、カロテノイドを含む。
- (2) ビタミン E では、 α -トコフェロール以外のビタミン E を含む。
- (3) ナイアシンでは、ナイアシン当量としての量で設定されている。
- (4) ビタミン B₆ では、食事性ビタミン B₆ としての量で設定されている。
- (5) 葉酸では、プテロイルモノグルタミン酸としての量で設定されている。

3 成長・発達・加齢

2018-88 成長・発達に伴う変化に関する記述である。正しいのはどれか。1 つ選べ。

- (1) 頭囲と胸囲が同じになるのは 4 歳頃である。
- (2) 体重 1 kg 当たりの摂取水分量は、成人期より幼児期の方が多。
- (3) カウプ指数による肥満判定基準は、年齢に関わらず一定である。
- (4) 乳幼児身体発育曲線における 50 パーセンタイル値は、平均値を示している。
- (5) 微細運動の発達は、粗大運動の発達に先行する。

4 妊娠期、授乳期

2018-89 母乳に関する記述である。正しいのはどれか。1 つ選べ。

- (1) 乳糖は、成熟乳より初乳に多く含まれる。
- (2) ラクトフェリンは、初乳より成熟乳に多く含まれる。
- (3) 吸啜刺激は、プロラクチンの分泌を抑制する。
- (4) 母乳の脂肪酸組成は、母親の食事内容の影響を受ける。

- (5) 母親の摂取したアルコールは、母乳に移行しない。

2018-90 妊娠期の糖代謝異常に関する記述である。誤っているのはどれか。1つ選べ。

- (1) 妊娠糖尿病とは、妊娠中に発症した明らかな糖尿病のことをいう。
- (2) 妊娠糖尿病の診断基準は、非妊娠時の糖尿病の診断基準とは異なる。
- (3) 妊娠糖尿病では、巨大児を出産する可能性が高い。
- (4) 肥満は、妊娠糖尿病発症のリスク因子である。
- (5) 糖尿病合併妊娠では、インスリン療法を行う。

5 新生児期、乳児期

2018-91 離乳の進め方に関する記述である。正しいのはどれか。1つ選べ。

- (1) 哺乳反射が活発になってきたら、離乳食を開始する。
- (2) 離乳を開始して1か月を過ぎた頃から、離乳食は1日3回にする。
- (3) 歯ぐきでつぶせる固さのものを与えるのは、生後9か月頃からである。
- (4) はちみつは、生後9か月頃より与えてよい。
- (5) 卵は、卵白から全卵へ進めていく。

2018-92 新生児期・乳児期の栄養に関する記述である。正しいのはどれか。1つ選べ。

- (1) 頭蓋内出血の予防として、ビタミンAを投与する。
- (2) 母乳性黄疸が出現した場合には、母親のカロテン摂取量を制限する。
- (3) 乳糖不耐症では、乳糖強化食品を補う。
- (4) ビタミンDの欠乏により、くる病が起こる。
- (5) フェニルケトン尿症では、フェニルアラニンを増量したミルクを用いる。

6 成長期

6-1 幼児期

2018-93 幼児期の栄養に関する記述である。正しいのはどれか。1つ選べ。

- (1) 基礎代謝基準値 (kcal/ kg 体重/ 日) は、成人より低い。
- (2) 推定エネルギー必要量は、成長に伴うエネルギー蓄積量を含む。
- (3) 間食は、幼児の好きなだけ摂取させてよい。
- (4) 咀嚼機能は、1歳頃に完成される。
- (5) クワシオルコル (kwashiorkor) では、エネルギー摂取量が不足している。

6-2 思春期

2018-94 思春期の女子に関する記述である。正しいのはどれか。1つ選べ。

- (1) 思春期前に比べ、エストロゲンの分泌量は減少する。
- (2) 思春期前に比べ、皮下脂肪量は減少する。
- (3) 貧血の多くは、巨赤芽球性貧血である。
- (4) 急激な体重減少は、月経異常の原因となる。
- (5) 神経性やせ症（神経性食欲不振症）の発症頻度は、男子と差はない。

7 成人期

7-2 閉経期

2018-95 更年期の女性に起こる変化である。正しいのはどれか。1つ選べ。

- (1) 血清 HDL-コレステロール値の上昇
- (2) エストロゲン分泌量の増加
- (3) 黄体形成ホルモン (LH) 分泌量の増加
- (4) 卵胞刺激ホルモン (FSH) 分泌量の減少

(5) 骨吸収の抑制

8 高齢期

2018-96 嚥下障害の高齢者に適した調理法に関する記述である。誤っているのはどれか。1つ選べ。

- (1) バナナをつぶす。
- (2) きゅうりを刻む。
- (3) にんじんを軟らかく煮る。
- (4) ジュースをゼリー状に固める。
- (5) お茶にとろみをつける。

2018-97 高齢者の栄養管理に関する記述である。誤っているのはどれか。1つ選べ。

- (1) ロコモティブシンドロームでは、要介護になるリスクが高い。
- (2) サルコペニアでは、筋萎縮がみられる。
- (3) フレイルティ（虚弱）の予防では、除脂肪体重を維持する。
- (4) 褥瘡の予防では、たんぱく質を制限する。
- (5) 誤嚥性肺炎の予防では、口腔ケアを実施する。

10 環境と栄養

2018-98 ストレス応答の抵抗期に関する記述である。正しいのはどれか。1つ選べ。

- (1) 交感神経の活動は、低下する。
- (2) 糖新生は、亢進する。
- (3) 血中遊離脂肪酸値は、低下する。
- (4) 血清ビタミンC値は、上昇する。
- (5) 尿中カルシウム排泄量は、低下する。

2018-99 環境温度と身体機能の変化に関する記述である。正しいのはどれか。1つ選べ。

- (1) 低温環境では、ふるえ熱産生が起こる。
- (2) 低温環境では、アドレナリンの分泌が減少する。
- (3) 高温環境では、熱産生が増加する。
- (4) 高温環境では、皮膚血管が収縮する。
- (5) 夏季は、冬季に比べ基礎代謝量が増加する。

解答

1 栄養ケア・マネジメント

2018-84: (2), 2018-85: (3)

2 食事摂取基準の基礎的理解

2018-86: (5), 2018-87: (5)

3 成長・発達・加齢

2018-88: (2)

4 妊娠期、授乳期

2018-89: (4), 2018-90: (1)

5 新生児期、乳児期

2018-91: (3), 2018-92: (4)

6-1 幼児期

2018-93: (2)

6-2 思春期

2018-94: (4)

7-2 閉経期

2018-95: (3)

8 高齢期

2018-96: (2), 2018-97: (4)

10 環境と栄養

2018-98: (2), 2018-99: (1)